

行春の眠りさめけり雷一とつ 栃木 櫻井 閑山

坐布團を枕に春の假寝かな 越後 加藤 春陽

寒食の窓より見るや田螺とり 同

蕨野や露美しく旭の昇る 常陸 落花 籠

菜の花や馬にゆられて頬冠り 上總 高橋 波月

水や草や恍惚として霞みけり 同

安房の山上總の丘や初霞 上野 加藤よし子

追加

摘草や石を並べて渡る溝 無一庵 奇零

まだ早き櫻に惜しむ戻りかな 同

春風や薬師が前の飴細工 同

薄月に訪ひよる人や柳影 同

茶を立て、春惜みけり晝の雨 同

新婚の旅の戻りや春惜しむ 同

山 吹

林 天 然

雨にそぼてる山吹は

黄金玉なす許りなり

みかりくらしして丈夫が

駒をとめし柴の戸ゆ

みのなきこそと少女子が

花も恥らふ風情にて

語らぬ心意の優しさに

思を千々に碎さけるかな

愛國婦人會總會の記

紫波ゆかり子

四月二日第四回愛國婦人會總會を九段偕行社に

て開かる、車軸を流す計りなりし昨夜の雨は、今